三鷹市立第四小学校　令和8年度【　　社会　】科　授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第3学年	【成果】 児童が単元の学習に興味をもったり意欲をもったりするような導入を行うことで、児童の考えを基にして問題解決的な学習を展開できた。 【課題】 単元の学習をまとめる活動で、自分の言葉でまとめたり、他の人が見ても分かるような言葉でまとめることに課題がある。	【現状】 〇学習の流れが定着しており、学習問題を立てた後、進んで調べ学習をする中で、難しい言葉を調べたり、教師に聞いたりしている。 〇生活科で学習したことをもとに、身近な地域に興味をもち、調べたことや考えたことを表現しようとした。 【課題】 〇単元の学習課題を一部の児童の言葉で立てているため、全員が共通認識をもって学習に臨めていない。 〇調べた内容を自分の言葉で表現したり、他者が見ても分かるような言葉で十分に表現したりするのが難しい。 〇何のために単元の学習を行ったり、まとめの活動を行ったりするのかという動機づけが不十分だった。	【習得と活用】 〇生活科の「五感での気づき」から、社会科の「比較・関係性」へシフトさせ、比べる視点を与えることで、社会の仕組みに気付かせる。 【補充的・発展的な指導】 〇児童の興味・関心を引き出し、かつ学習課題を立てるにあたり多くの児童が気付きや疑問点をもてるような資料の提示を見せ方の工夫も含めて行う。 【三鷹『学び』のスタンダード】 ◎考えたり調べたりしたことを文章にまとめられるように、児童が探求し続けたくなるような学習問題を立てる。 ◎自分も友達も分かるような、まとめ方を指導し、少しずつ自分の言葉でまとめられるようにする。
第4学年	【成果】 〇自分の学習課題をもち、調べたり見たりした内容をノートにまとめたり、新聞などで、発信したりすることができるようになってきた。 【課題】 〇数多くの情報から必要なものを取捨選択することができていない。また、情報を写すだけになってしまうことが多くある。 〇学習した内容を自分の生活につなげて考えられる児童が少ない。	【現状】 〇資料から予想をしたり学習問題を作ったりして意欲的に学習に取り組む姿勢が見られる。 〇学習の見通しをもつことはできているが、調べ学習をする中で目的を見失ってしまい、内容がずれてしまっている児童が見受けられる。 〇資料の内容を読み取り、整理することに意欲的に取り組む姿が見られるが、うまく整理できないでいる児童もいる。 【課題】 〇タブレット端末を活用する中で、必要な情報を取捨選択することが難しい。 〇情報を多く集めることに集中してしまい、その情報を読み取ったり自分の言葉に変えたりすることができていないことが多くある。	【習得と活用】 〇「学習課題をもつ→調べる→結論をもつ→結論についての自分の考えをもつ→新たな課題を見つける」という流れで学習を行い、調べたことをまとめたり、それに対する自分の考察を考えさせる機会をもたせるようにする。 〇情報の扱い方については適宜手本を見せ、情報を集めて終わりではなく、集めた情報をどう使うか、学んでいくかが大切であることを示していく。 〇学習内容に合わせて、使う教材（教科書・わたしたちの東京都・地図帳・タブレット）を絞ることで児童が適切に調べ学習をできるようにする。資料整理については、思考ツールを効果的に使用させ、慣れさせていく。 【補充的・発展的な指導】 〇学習内容の見通しをもたせるため、単元のはじめに学習計画を立てる。児童の「学びたい」と教師の「学んでほしい」がリンクできるようにする。 【三鷹『学び』のスタンダード】 ◎学習内容の要点を自分自身で考えながら学習に取り組むことができるように、大事だと思ったことは黒板に書かれていなくてもノートに書くこと、思考の流れが視覚的にわかるようなノート構成ができることを指導し、児童が主体的に学びに向かう力を高めていく。
第5学年	【成果】 〇調べ学習の際、文章や写真などの資料から適切な情報を読み取れる児童が増えてきた。 【課題】 〇2つ以上の資料をつなげて、課題に迫る情報を読み取ることが難しい。 〇学習したことを生活に関連付けて考えることが難しい児童がいる。	【現状】 〇本時のめあてに沿って必要な情報を選択し、ノートにまとめることの児童が増えてきた。自分の言葉や図や記号を使ってまとめることはまだ難しい児童が多い。 【課題】 〇複数ある資料のつながりに気付き、多面的に課題を捉えることが難しい。 〇1時間または単元を通して大切なキーワードを掴み、自らの言葉で「まとめ」を書く力の個人差が大きい。	【習得と活用】 〇学習問題の解決として、学びを整理しながら集めた情報を統合し、他者に伝えることで定着を図る。 【補充的・発展的な指導】 〇調べる内容を焦点化できるよう、学習課題の解決に近づくキーワードを調べるための小テーマを提示する。デジタル教科書を活用し、資料を全体で共有することで、課題解決に必要な資料や用語を確認する。 【三鷹『学び』のスタンダード】 ◎個人の課題解決に取り組む時間を確実に確保する。また、大切なことが視覚化された板書を作成するとともに、思考の流れが視覚的にわかるようなノート構成ができることを指導し、児童が主体的に学びに向かう力を高めていく。
第6学年	【成果】 〇テーマに応じて、調べる内容を決め、適切な資料を選び、必要な情報を集めることができる児童が増えた。 【課題】 〇一面的な見方から多面的・多角的な見方へ広げたい。 〇調べたことを自分の言葉にかえて説明することが苦手な児童が一定数いる。	【現状】 〇語句と意味を結び付けて習得することができる。資料から読み取れた事実とその背景に起きた事象を想像することが難しい児童が多い。 【課題】 〇用語などの知識はあるが、学習したことを自分の言葉に変えて、筋道立てて伝えることが難しい。 〇社会事象を個別でとらえていることが多く、つながりにまで目を向けられる児童が少ない。	【習得と活用】 〇単元を通して学んだことを新聞やパンフレット、レポート、新聞等にまとめ、友達に伝える活動を取り入れる。また、学習した情報を整理し、ペアトークやグループワーク等で他者に伝える力を養う。 【補充的・発展的な指導】 〇ドリルパークを活用し、学んだ内容を復習する課題を提示する。また、達成度が満たなかった子へ追課題を用意して、取り組ませる。 【三鷹『学び』のスタンダード】 ◎個人の課題解決に取り組む時間を確実に確保する。その際に、社会的事象同士のつながりや事象の背景に目を向けるよう声掛けをしていく。また、大切なことが視覚化された板書を作成するとともに、思考の流れが視覚的にわかるようなノート構成ができることを指導し、児童が主体的に学びに向かう力を高めていく。